

## 第2次光市総合計画について

平成28年5月

光 市



# 目 次

## 【序論】

第1章 第2次光市総合計画とは	1
1 策定の趣旨	1
2 計画の役割	1
3 計画の期間と構成	2

第2章 計画策定の背景	3
1 光市の特長	3
2 人口と世帯の動向	5
3 産業ごとの就労状況	10
4 時代の潮流	11
5 市民意識（市民意向調査の結果から）	16
6 第1次光市総合計画の成果と評価	24

第3章 長期未来予測	44
1 長期未来予測の趣旨	44
2 20年後の姿	44

## 【総論部】

第4章 まちづくりの考え方	47
1 基本理念	47
2 基本姿勢	47
3 施策の体系	47

## 【戦略部】

第5章 （仮称）重点プロジェクト	48
------------------	----

<b>【各論部】</b>	
第6章 分野別計画	49
<b>【その他】</b>	
第7章 財政計画	52
第8章 地域別整備計画	53
1 地域別整備計画の目的	53
2 地域の設定	53
3 地域別整備計画	53
第9章 中山間地域の振興に関する基本的な方針	54
1 基本方針の目的	54
2 対象地域の設定	54
3 基本方針	54
<b>【参考資料】</b>	
1 新しいまちづくり計画の体系図	56

# 第1章 第2次光市総合計画とは

## 1 策定の趣旨

平成16年10月4日、新「光市」が誕生してから10年余り。まちづくりの羅針盤としての役割を担ってきた本市初の光市総合計画（2007－2016）を手に、市民の皆さんとともに創り上げてきたまちは、大きく発展を遂げました。

この間、「共創と協働で育む まちづくり」を基本理念に、合併で誕生した本市が未来へと力強く飛躍するための基礎体力を培う一方、花開く市民力や地域力のもとで、誰もが幸せや満足を実感できる「やさしさあふれる『わ』のまち ひかり」への着実な歩みを進めてきました。

しかし、我が国全体、とりわけ地方において深刻化する人口減少や少子高齢化、東京への人口の一極集中といった人口問題は、本市も例に漏れず、国の研究機関である国立社会保障・人口問題研究所の予測においても、今後ますます人口減少や少子高齢化が加速していくことが示されるなど、地域経済の縮小や地域活力の喪失が懸念されています。

さらに、グローバル化する社会経済や、頻発する大規模な自然災害などを背景とする安全・安心意識の高まり、市民の価値観やライフスタイルの多様化など、地方自治を取り巻く環境は依然として激流の様相を呈しています。

本総合計画は、このような社会経済情勢をはじめ、人口減少社会の中で想定される様々な課題を乗り越え、人口減少下においても、本市で暮らす全ての人々が心から幸せを実感できる、私たちが目指すべき理想の光市の姿、すなわち「ゆたかな社会」を目指していくために、「現在の時代」に為すべきことを整理し示すもので、今後5年間のまちづくりの新たな羅針盤として策定するものです。

## 2 計画の役割

### (1) まちづくりの総合的な指針

あらゆる分野別計画の最上位に位置する計画として、将来を展望した総合的かつ計画的なまちづくりによって本市が理想の未来を切り拓くための指針とするものです。

### (2) 未来を共有し、行動するための指針

時代の潮流を的確に捉えつつ、本市が目指す未来の姿を地域や事業所、行政など「チーム光市」が共有し、実現に向けた行動を起こすための協働の指針とするものです。

### (3) 人口減少時代に臨む姿勢を明示

多くの人に選択されるまちを目指すべく、人口減少時代に臨む本市の姿勢を示すとともに、国、県などと光市創生に向けた連携・調整を図る際の基本とするものです。

### 3 計画の期間と構成

#### (1) 新しいまちづくり計画

従来の基本構想と基本計画を一体化させ、「新しいまちづくり計画」として策定します。新しいまちづくり計画では、長期未来予測で示す長期的な展望に基づき、中期・短期の施策を展開するための基本的な方針や重点戦略、政策分野別の個別計画などを定めます。

なお、市民生活や経済活動の基盤としてまちづくりの重要な要素となる土地利用の構想については、「光市都市計画マスタープラン」に定めるものとします。

#### 計画期間

平成29年度を初年度に平成33年度までの5年間とします。

#### 構成

##### ① 長期未来予測

人口の将来を展望し、概ね20年後の人口動態や都市の理想像などを示す

##### ② 総論部

まちづくりの理念や姿勢など、まちづくりの基本的な方針を示す

##### ③ 戦略部

計画期間内に重点的かつ戦略的に取り組むプロジェクトを示す

##### ④ 各論部

まちづくりの総合的かつ計画的な推進のため、政策分野における必要な施策を示す

##### ⑤ その他

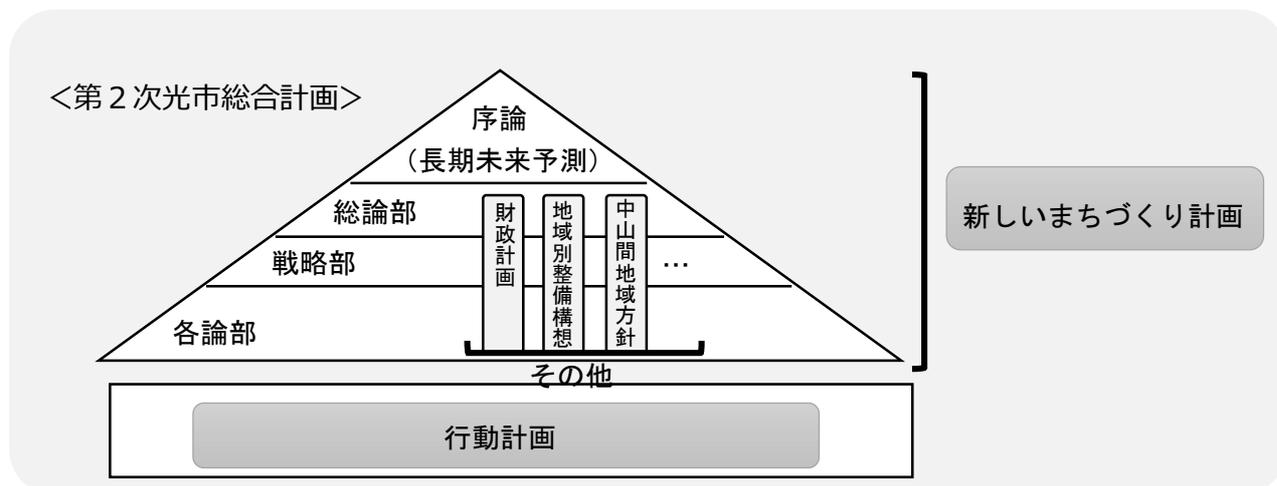
財政計画、地域別整備構想、中山間地域の振興に関する基本的な方針 など

#### (2) 行動計画

新しいまちづくり計画で示した施策の基本的な方向性に沿って、具体的な事業の内容を短期間の計画として定めます。

#### 計画期間

3年スパンの短期間の計画とし、ローリング方式により毎年見直します（初回は平成29～31年度）。



## 第2章 計画策定の背景

### 1 光市の特長

#### (1) 自然と都市が調和するコンパクトなまち

本市は、総面積約9.2km<sup>2</sup>、東西方向は約1.6km、南北方向は約1.5kmと、県内でも有数のコンパクトサイズの都市で、瀬戸内国立公園の一角をなす白砂青松の室積・虹ヶ浜海岸をはじめ、県立自然公園にも指定される幽玄な石城山、多様な生き物のいのちを育む母なる島田川など、美しく豊かな景観と自然環境に囲まれています。

一方、JR山陽本線をはじめ東西を貫く国道188号線や近接する高速道路などの交通網、2つの市立病院などの充実した医療・福祉施設や温泉施設、冠山総合公園や各種スポーツ・文化施設、産業施設など、健康で文化的な快適生活を支える良質な都市基盤も整備され、「自然敬愛都市宣言」のまちとして、自然と都市が調和した潤いあふれるまちを形成しています。

#### (2) 温暖で穏やかな光がふりそそぐまち

平成18年から27年までの10年間の平均気温は16.0℃（最高34.3℃、最低-2.7℃）、年間降雨量の平均は1662.6mmで、瀬戸内式気候の特徴である温暖な暮らしやすいまちです。

また、一年を通して晴れの日が多く、全国でもトップクラスの日照時間を有する名のごとく光がふりそそぐまちであり、太陽光、太陽熱などの再生可能エネルギーの利活用に適したまちであるといえます。

#### ■ 10年間の気温、湿度、降雨量 ■

年	気温 (℃)			湿度 (%)			降雨量 (mm/年)		
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	降雨日数	降雨量	月平均
18	35.1	-3.4	16.0	96.3	11.1	68.0	120日	2066.5	172.2
19	33.8	-1.1	16.6	94.7	10.7	64.3	95日	1176.5	98.0
20	35.5	-2.0	16.1	97.0	12.9	66.3	104日	1505.5	125.5
21	33.0	-2.5	16.1	97.7	12.4	66.7	112日	1717.0	143.1
22	34.0	-1.7	16.1	92.7	14.6	65.4	118日	1692.0	141.0
23	34.1	-5.4	15.8	92.2	11.7	64.9	101日	1564.0	130.3
24	34.4	-4.0	15.5	98.1	14.3	65.9	114日	1533.5	127.8
25	34.4	-2.7	16.0	98.4	18.3	75.5	100日	1971.5	164.3
26	34.6	-1.8	15.7	98.6	10.7	77.8	120日	1603.0	133.6
27	34.2	-2.1	16.0	98.7	20.6	80.2	121日	1976.5	149.7

【出典：光地区消防組合消防本部】

### (3) 多彩な「モノ」を生み出す産業都市

本市は、全国と比較して建設業や製造業などの第二次産業従事者の割合が高い、ものづくりのまちとしての一面を有しており、鉄鋼・薬品の2大企業をはじめ、食品や機械、金属加工など独自の技術で全国はもちろん世界に羽ばたくオンリーワン企業が活躍しています。

また、農業振興拠点施設「里の厨」を中心に、豊かな自然の中で育む新たな特産品の開発や第六次産業化による農業の活性化の動きも進んでおり、多彩なモノを生み出す産業都市として発展を続けています。

### (4) 人にやさしい「おっばい都市宣言」のまち

唯一無二の「おっばい都市宣言」のまちとして“母と子と父そして人にやさしいまち光”の理念がまち全体に根付いています。市内外からも多くの人を訪れる2つの産婦人科病院をはじめとする恵まれた産科小児医療体制、待機児童ゼロを維持しつつ、保育料の負担軽減や延長保育、病児保育などを備えた充実の保育環境、コミュニティ・スクールの展開による地域と一体になった先進的な教育環境など、子どものあらゆる成長過程の中に安心して子育てできる“まちのやさしさ”を生み出しています。また、心温かくたくましい若者に成長した“光っ子”は、郷土への愛着と人情にあふれ、“ひとのやさしさ”を生み出してくれます。

### (5) 幕末のロマンを感じる初代内閣総理大臣生誕の地

近代日本の礎を築いた初代内閣総理大臣伊藤博文公は、「世界と渡り合える新しい日本の時代をつくる」という崇高な「志」を持ち、近代日本の礎を築いた本市出身の偉人です。伊藤公記念公園を核として、その生涯や業績を伝えながら、時を超えて公の「志」を継承しています。

このほかにも、石城山に佇む第二奇兵隊本陣跡をはじめ市内各所にみられる幕末維新期の史跡は、激動の時代の舞台となった当時の面影を色濃く残しています。

また、平成30年には、明治維新150年の節目を迎えることから、これを機に古の歴史を再発見しようとする動きが高まることが期待されます。

### (6) 2つの市立病院を核とした安心の医療と健康・長寿のまち

主に急性期医療を担う光総合病院と、主に慢性期医療を担う大和総合病院の2つの市立病院が、機能を補い、連携しながら地域医療の核として市民の安心の砦となっています。さらに、超高齢社会への対応として、2つの市立病院の後方支援のもと、医療・介護・予防・生活支援・住まいのサービスが連携する本市独自の地域包括ケアシステムの構築も進んでいます。

また、平均寿命の長さや健康寿命との差の短さは県内トップクラスであり、日頃から市民の健康に対する意識が高く、老若男女問わず、誰もがいつまでも自分らしく安心して暮らせるまちであるといえます。

## (7) 協働の精神が脈打つ市民力・地域力が花開くまち

市民の中に自助・互助・共助・公助の調和に基づく協働の精神が脈打っており、長い歴史と伝統がある市民総参加のまちの美化活動「クリーン光大作戦」をはじめ、地域における防災の要となる自主防災組織の活動や、子どもの見守り活動など、市内の至る所で市民力・地域力が発揮されています。

また、各地域において組織するコミュニティ協議会を中心に、地域のコミュニティ活動の自主運営を行うとともに、地域の未来を自ら考え、決め、行動するための地域のコミュニティプランの策定及びこれに基づく取組みが進むなど、特色ある地域づくりが展開されています。

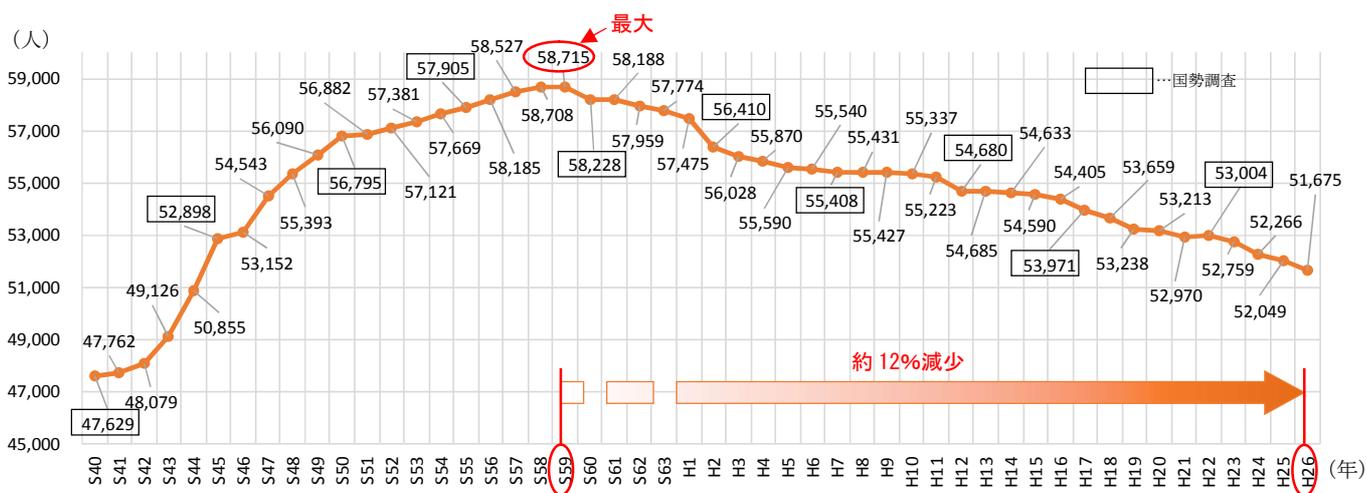
## 2 人口と世帯の動向

平成 27 国調確報値を受けて文章・グラフ追加・修正

### (1) 総人口

第2次ベビーブームや高度経済成長などを背景に、昭和40～50年代にかけて出生数や転入者数が大幅に増加し、総人口を急激に押し上げる要因となりました。しかし、その後は、昭和59年の58,715人をピークに減少傾向となっています。平成26年の人口は、51,675人で、昭和44～45年頃と同じ水準となっています。ピーク時と比べると、30年間で7,040人、率にして約12%の減少となっています。

### ■ 総人口の動き ■



【出典：国勢調査、人口移動統計調査、山口県「推計人口」】

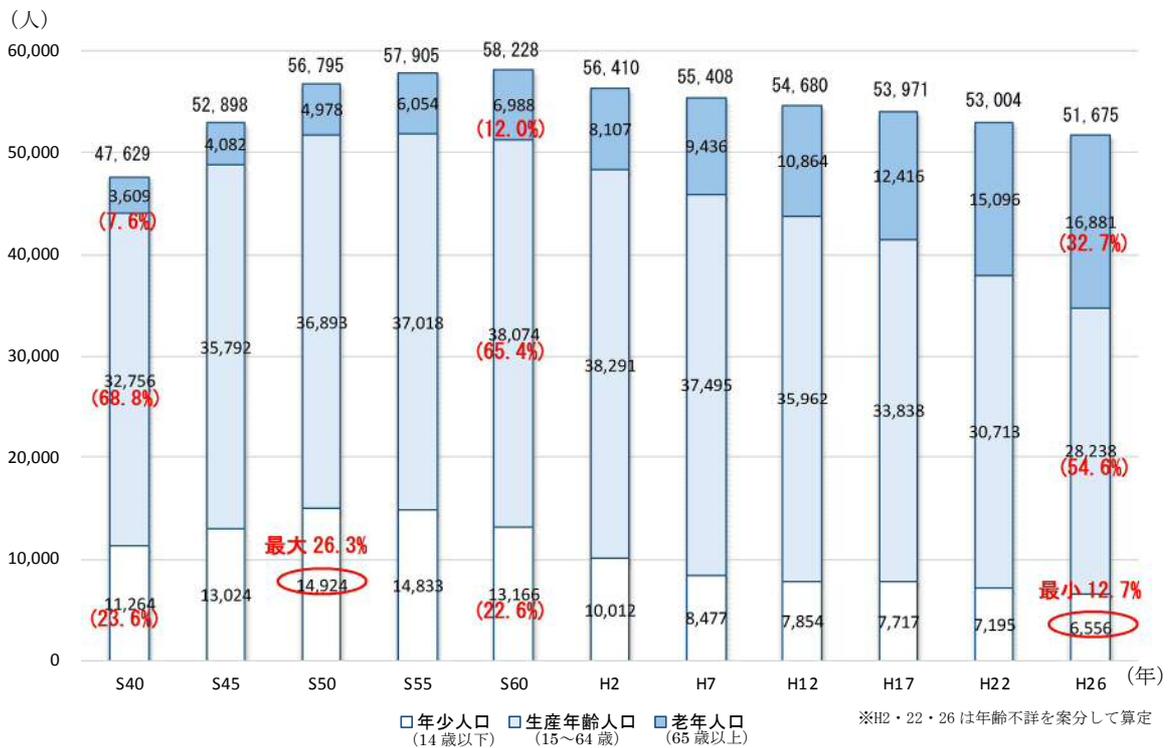
(2) 年齢ごと（3区分別）の人口

65歳以上の老年人口は、昭和40年以降、数、割合とも増加を続けており、平成17年の国勢調査時には、超高齢社会の基準とされる21.0%を超えました。

一方、14歳以下の年少人口は、第2次ベビーブームを背景に、昭和40～50年にかけて増加したものの、以降、数、割合とも減少を続けており、平成26年時点では12.7%となっています。

また、平成22年には、老年人口が年少人口の2倍を超えました。

■ 年齢ごと（3区分別）の人口の動き ■



【出典：国勢調査、山口県「推計人口」(H26)】

### (3) 自然増減（出生・死亡）と社会増減（転入・転出）の動向

#### ア 自然増減

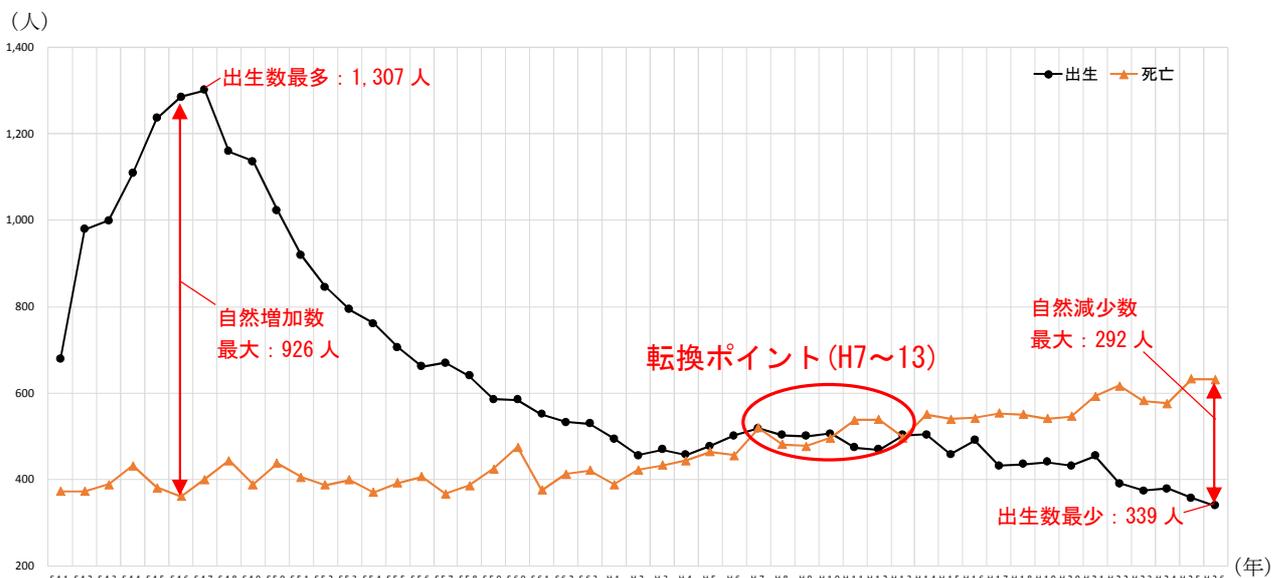
平成 27 数値が出次第、文章・グラフ追加・修正

#### ○ 出生数・死亡数

自然減（死亡数が出生数を上回る）の状況は、国よりも 10 年早い平成 7 年にその兆しが見られ、以降その減少幅は拡大の一途をたどっています。平成 26 年の出生数は、ピークの昭和 47 年と比べ約 26% に落ち込むなど、出生数の減少が著しくなっています。

また、高齢化の進行とともに死亡数が徐々に増加していることがうかがえます。

#### ■ 出生数と死亡数の動き ■



【出典：人口移動統計調査】

#### ○ 女性が一生に産む子どもの人数の平均（合計特殊出生率）の推移

合計特殊出生率は、全国、県ともに一時期より回復の傾向が見られるものの、平成 26 年は全国で 9 年ぶりに低下しています。一方、本市では平成 15～19 年の 1.49 から、平成 20～24 年の 1.60 に回復しています。本市は全国、県よりも若干高い水準にあります。

#### ■ 合計特殊出生率の推移 ■

(年)	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
全国	1.29	1.29	1.26	1.32	1.34	1.37	1.37	1.39	1.39	1.41	1.43	1.42
山口県	1.36	1.36	1.38	1.40	1.42	1.43	1.43	1.56	1.52	1.52	1.56	-
光市	1.49					1.60					-	-

(出典) 光市子ども・子育て支援事業計画、山口県人口ビジョン、厚生労働省「人口動態統計」

## イ 社会増減

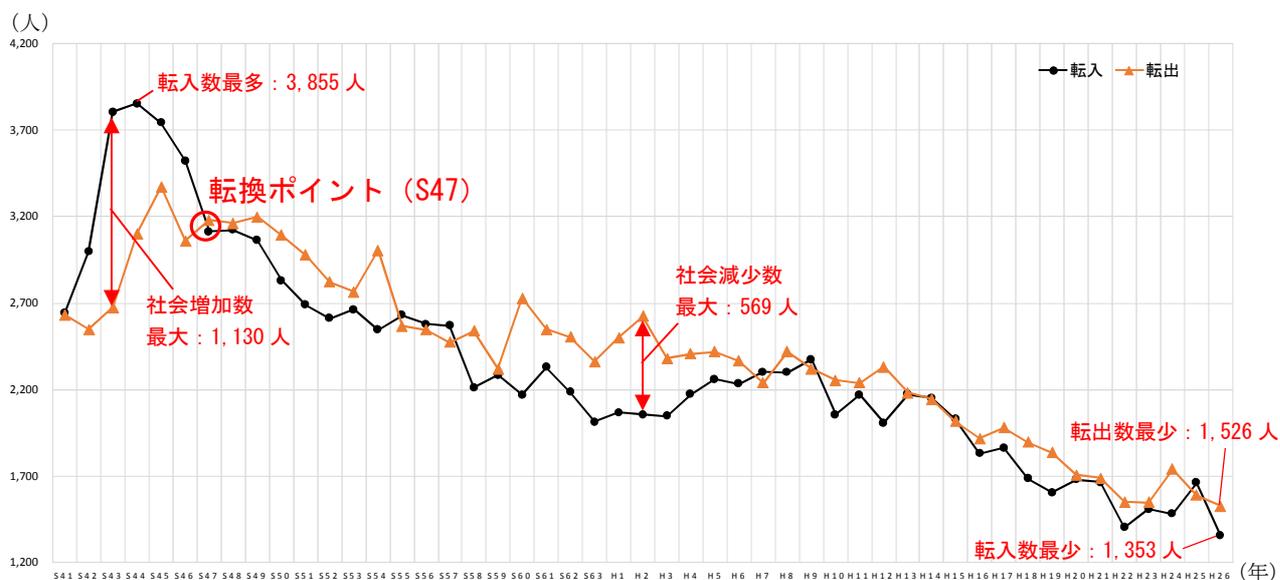
平成 27 数値が出次第、文章・グラフ追加・修正

### ○ 転入数・転出数

転入が昭和 44 年、転出が昭和 45 年をピークに減少傾向が続いており、平成 26 年には、転入数、転出数ともに過去最少となっています。

また、昭和 47 年以降、社会減（転出数が転入数を上回る）の傾向に転じ、以降、年によって上下はあるものの、概ねその傾向が続いています。

### ■ 転入数と転出数の動き ■



【出典：人口移動統計調査】

※人口ビジョン非掲載

平成 27 数値が出次第、文章・グラフ追加・修正

○ 年代別・性別の転入転出状況

50歳代、60歳代以上の高齢世代は転入超過である一方、10歳代、20歳代の若年世代は転出超過となっており、特に20歳代の転出超過数が最も多く、10歳代と合わせると、実に全体の約94%を占めています。また、両世代とも転出先は県外を選ぶ人が多くなっています。

なお、30歳代は、若干の転入超過、40歳代は若干の転出超過となっています。

■ 年齢別・性別の転入転出の状況 (H22-26) ■

	転入			転出			転入 - 転出		
	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計
10歳代以下	668	620	1,288	835	738	1,573	▲ 167	▲ 118	▲ 285
20歳代	1,194	1,062	2,256	1,440	1,326	2,766	▲ 246	▲ 264	▲ 510
30歳代	818	801	1,619	813	783	1,596	5	18	23
40歳代	430	293	723	452	317	769	▲ 22	▲ 24	▲ 46
50歳代	290	179	469	282	166	448	8	13	21
60歳代以上	326	404	730	268	314	582	58	90	148
合計	3,726	3,359	7,085	4,090	3,644	7,734	▲ 364	▲ 285	▲ 649

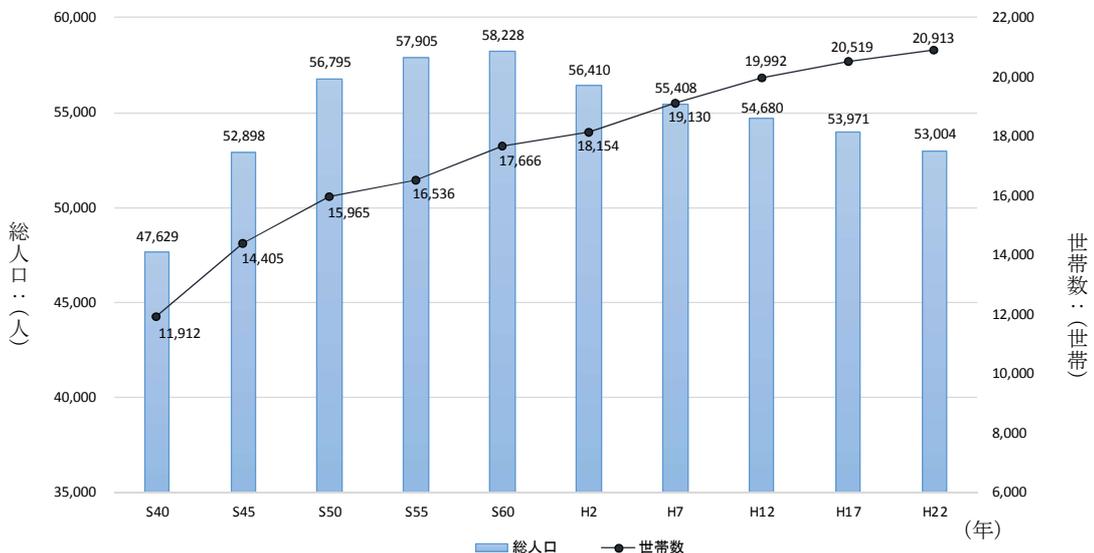
※国外・不明等は除く 【出典：住民基本台帳】

(4) 世帯の動向

平成 27 国調確報値を受けて文章・グラフ追加・修正

総人口と世帯数の関係を見ると、総人口が昭和60年以降減少する一方で、世帯数は増加の一途をたどっています。総人口が現在と同水準であった昭和45年と比較すると世帯数は約1.5倍となっています。

■ 総人口と世帯数の推移 ■

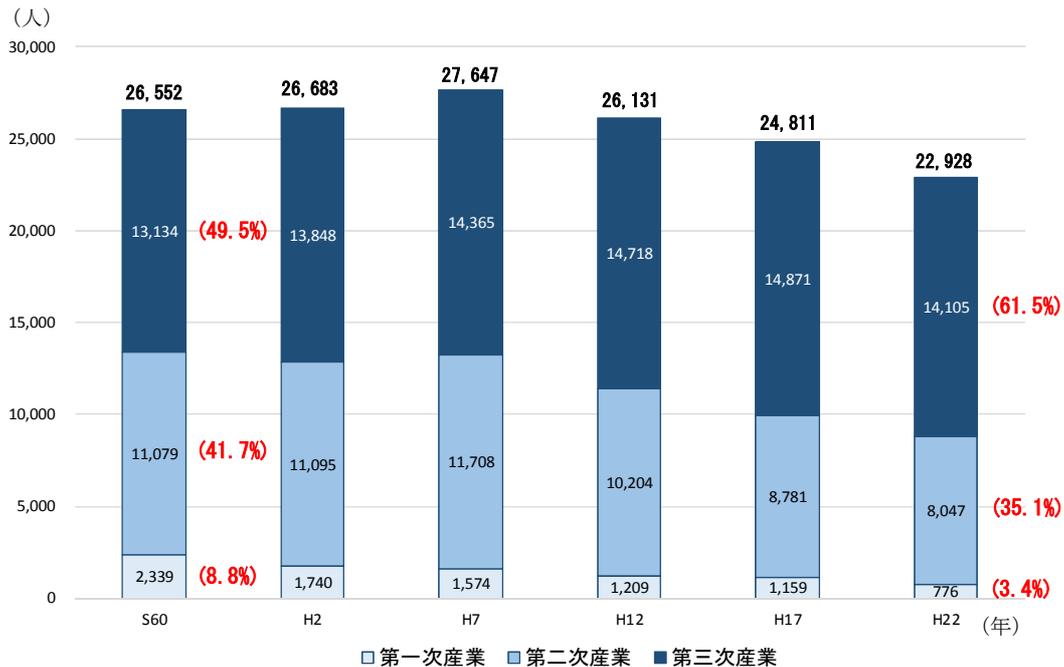


【出典：国勢調査】

### 3 産業ごとの就労状況

就業者数は、第一次産業から第三次産業まで、全ての産業において減少傾向にあります。特に、平成 22 年における第一次産業の就業者数は約 800 人と、昭和 60 年の約 3 割にまで減少しており、担い手の不足が顕著にみとれます。一方、第三次産業は減少幅が小さく、おおむね 14,000 人台で推移しています。

#### ■ 産業分類別の就業者数 ■



※分類不能を除く 【出典：国勢調査】

## 4 時代の潮流

### (1) 人口減少と少子高齢化の加速化

我が国の総人口は、平成20年（2008年）の1億2,808万人をピークに減少傾向に転じ、平成27（2015）年国勢調査（速報値）では、1億2,711万人と、大正9年の調査開始以来、初めての減少となりました。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、平成72年（2060年）には8,674万人まで減少するとされています。また、総務省の推計によると15歳未満の年少人口の割合は過去最低の12.8%となる一方、65歳以上の老年人口の割合は過去最高の26.0%、さらに75歳以上に限ると12.5%と国民の8人に1人を占めるなど、少子高齢化が深刻な状況です。

平成27年国勢調査（速報値）によると、本市の総人口は平成22年国勢調査時の53,004人から約1,600人減少し、51,392人となっています。で年少人口の割合は過去最低の12.7%である一方、65歳以上の老年人口の割合は過去最低の32.7%となり、年少人口の2倍以上にのぼります。このように本市では、国を大きく上回るスピードで少子高齢化が進展しており、福祉・医療や都市基盤、公共交通など様々な観点から、時代変化への対応を進めていく必要があります。

### (2) まち・ひと・しごと創生（地方創生）の推進

地方の人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい住環境を確保し、将来にわたって活力のある日本社会を維持することを目的に、平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法」が制定されました。

この法に基づき、国や地方公共団体では「地方における安定した雇用を創出する」、「地方への新しい人の流れをつくる」、「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」、「時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守る」ことを目標とする「まち・ひと・しごと総合戦略」を策定し、戦略に基づく取組みが本格化しようとしています。

こうした中、内閣府が行った、東京在住者の今後の移住に関する意向調査の結果によると、約4割の人が移住を予定又は移住を検討したいと回答するなど、

今後、首都圏から地方への人の流れが加速化する兆しも見え始めています。

本市では、平成27年12月に策定した「光市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、人口減少や地域経済縮小を克服するための具体的な取組みを開始していますが、市民の定着や本市へのUJIターンなどの移住・定住対策や少子高齢化に対応できる活力ある地域社会を構築していくため、引き続き、時代の風向きを読み取りながら戦略の総合的かつ計画的な推進に努める必要があります。

### (3) 社会経済のグローバル化の進展

人・物・資金など社会経済のグローバル化が進む中、世界経済はリーマン・ショックやギリシャに端を発した欧州債務危機という2度の深刻な危機を経験しました。この間、先進国経済は大きく落ち込む一方で、中国やインド、ASEAN諸国をはじめとする新興国が世界経済の成長を牽引し続けており、今や、これら新興国の動向は、我が国の社会経済にとっても不可分の関係となっています。

一方、グローバル化の進展により訪日外国人旅行者（インバウンド）は、平成27年には1,974万人に達するなど飛躍的に伸びています。地域経済を支える新たな産業として観光産業の成長に期待が集まっており、各地で日本版DMO設置の動きが進んでいます。

本市においても、大手企業による海外への進出や海外企業との連携が進む一方で、新興国等のライバル企業との競争の激化など経済のグローバル化の渦中にあり、世界の動きと企業活動が相まって雇用や消費などの市民生活、さらには税収などにも影響を及ぼす懸念があることから、関連する動向を注視していく必要があります。

### (4) 安全・安心に対する市民意識の高まり

平成25年7月に萩市周辺で発生した集中豪雨や平成26年8月に広島県で発生した大規模な土砂災害被害、鬼怒川が決壊した平成27年9月の関東・東北豪雨など、東日本大震災以降も大規模な自然災害が後を絶ちません。

さらに平成28年4月、熊本県と大分県で発生した一連の地震、加えて高い

発生確率が見込まれる東南海・南海地震なども相まって、安全・安心に対する国民の不安は強いかき立てられています。

また、身近な暮らしの中でも、高齢者や幼児などの弱者を狙った卑劣な犯罪、インターネットを利用した知的犯罪など、巧妙化、悪質化する手口に私達は脅かされています。このほか、交通事故や新たな感染症、テロや武力攻撃などに対する社会不安など、時代の進展とともに対応すべき課題は増幅する一方となっています。

しかしながら、こうした自然災害や事件・事故等を完全に防ぐことは困難であることから、安全で安心できる市民生活の確保に向けて、過去の教訓なども参考に強固な危機管理体制を構築する一方で、「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識を広く醸成していくことが求められています。また、広域的な課題については、国や県と十分に連携した対応を進めていく必要があります。

#### (5) 価値観やライフスタイルの多様化

個人の価値観やライフスタイルの多様化に伴い、従来の「物質的な豊かさ」から「精神的な豊かさ」へと人々の価値観は変化しています。また、画一的な集団から脱して自分らしさを大切にしようと、都会から地方に移住しようとする動きも見え始めており、移住者の手で全国に発信された、都会にない魅力が大きな反響を呼び、まちの活性化につながった事例なども報告されています。

さらに、仕事と家庭のみならず、市民活動や自己啓発など様々な活動との調和がとれた生き方の実現、いわゆるワーク・ライフ・バランスの考え方が重視されつつあります。

こうした中、多くの人に選ばれるまちとなるためには、他にはない、まち独自の個性や魅力を磨くとともに、市民一人ひとりが希望や生きがいをもって生活できる社会の構築が求められています。

本市では、三つの都市宣言に掲げる理念を基調に、まちの個性と魅力の創出と市民が幸せを実感できる質の高い施策の展開に努めており、引き続き、こうした取組みを進める一方、多様な価値観に応じた暮らし方や働き方を提案するなど、市民や移住希望者の多様な思いや願いに機敏に反応し、自己実現を後押ししていく必要があります。

## (6) 地域自治の機運の高まり

人口の流出や少子高齢化の進展などにより、地方の多くでは地域コミュニティの衰退が進み、住民間のつながりの希薄化から「無縁社会」という言葉に象徴される孤独死や児童虐待が大きな社会問題となるとともに、安全・安心な日常生活の維持や生活交通の確保、伝統文化の保存継承、農地や山林の保全などの課題が顕在化しています。

こうした中、地域や住民との協働なくして多様化する地域課題の解決や安全・安心な地域社会の存続は困難な状況となっており、地域住民が、自分たちの地域のことを自分たちで考え、行動する地域自治の確立が強く求められています。

本市においては、平成26年12月に策定した「コミュニティ推進基本方針」に基づき、各地区でコミュニティプランの策定を進めるなど、地域自治の実現に向けた機運が高まりを見せています。こうした機運を背景として、市民との協働関係を深化させるとともに、世代を超えて地域が協力・連携できる環境や仕組みを整えるなど地域自治の実現を後押ししていく必要があります。

## (7) 厳しさを増す地方財政

我が国の経済は、政府による経済対策や平成32年の東京オリンピック影響により、一部の都市圏では回復の兆しをみせていますが、地方への波及には今なお時間を要しています。

こうした中、地方の財政状況は、少子高齢化や生産年齢人口の減少、地域経済に停滞に伴う税収の減少などにより厳しさを増しています。一方、歳出についても、高度経済成長期以降に整備された学校や道路・橋梁・上下水道等の公共施設の老朽化が進んでおり、今後、維持管理に要する費用が集中する時期を迎えることから、これまで以上の厳しさが予想されます。また、合併自治体においては、普通交付税の特例措置である合併算定替の段階的縮小や合併特例債の発行期限の到来など特有の課題に直面しています。

本市財政は、法人市民税収入への依存度が高く景気変動等の影響を受けやすいことや、本市に対する合併支援措置が平成31年度に終了することなどの外的要因を抱える一方、今後、公共施設の維持管理などに伴う負担への対応が課

題となっています。このため、これまで以上に、選択と集中による財源の有効活用に努めるとともに、中長期的な視点に立った計画的な財政運営に心がけていく必要があります。

## 5 市民意識（市民意向調査の結果から）

これからのまちづくりを進めていく上で、光市にとって「必要なこと」、「重要なこと」などの市民意識を把握し、第2次光市総合計画策定の基礎とするため、平成28年2月に16歳以上の市民を対象とした「市民意向調査」を実施しました。

### 【市民意向調査 配布回収状況】

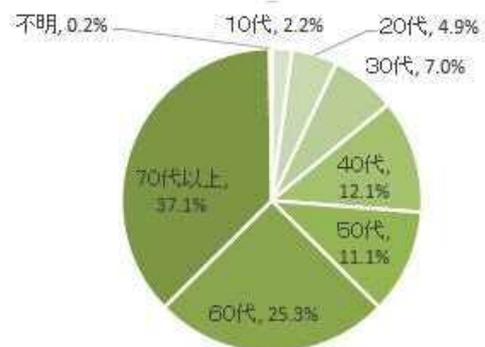
	配布数	有効配布数	回収数	回収率
市民意向調査	3,000	2,988	1,209	40.5%

### 【回答者の属性】

（性別）



（年齢別）

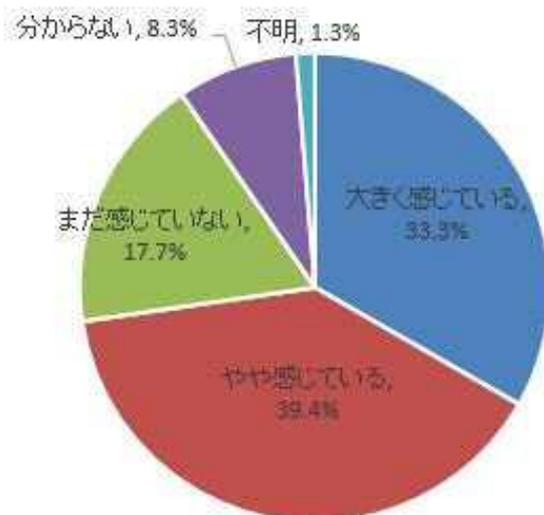


（地区別）



(1) 人口減少について

ア お住まいの地域での暮らしの中で人口減少の影響を感じていますか？



【市民意識の傾向】

- ・ 暮らしの中での人口減少の影響について、約7割の方が何らかの形で感じています。

イ 今後、人口減少がさらに進行した際に特に気になる課題はどれですか？

【回答（複数回答）】

1	社会保障費（医療、介護、年金など）などの働き手一人あたりの負担の増大	59.3%
2	空き家、耕作放棄地の増加や、森林の荒廃	46.6%
3	スーパーなどの店舗や病院・診療所の撤退	34.1%
4	医師や介護職員などの医療・介護の担い手不足	32.2%
5	バスなどの公共交通の減便や廃線	26.7%
6	消費量と生産量の落ち込みによる経済活力の低下	25.8%
7	近所や自治会などのつながりの希薄化や弱体化	24.5%
8	公共施設や都市インフラ（道路や水道など）の適切な運営・維持管理が困難	13.5%
9	地域の文化や伝統の伝承が困難	6.0%

ウ 人口減少に歯止めをかけるために、どのようなことが必要だと思いますか？

【回答（複数回答）】

1	若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること	60.7%
2	雇用の受け皿となる地場産業を育成すること	44.8%
3	U J I ターンを促進するための事業や取組み（住まいの支援など）を強化すること	27.5%
4	妊娠期から乳幼児期までの医療の充実や、保育所等の子育て環境を整備すること	24.8%
5	子どもが安心して健やかに育つ社会づくりを進め、教育環境を整備すること	24.7%
6	結婚を希望する人への出会いの機会を提供するなどの結婚支援策を充実すること	22.1%
7	豊かな自然環境や充実した医療環境をはじめとした住みよさをさらに磨くこと	20.7%
8	高齢者がいつまでも健康で活躍できる環境を整備すること	19.3%
9	地域交通の利便性を向上すること	13.3%
10	観光資源の発掘やネットワーク化によって交流人口や週末人口を増加させること	7.7%

【市民意識の傾向】

- ・ 気になる課題としては、社会保障費の増大のほか、空き家やスーパーの問題など、暮らしへの影響に関する項目が上位を占めています。
- ・ 必要な取組みとしては、雇用確保や地場産業の育成、U J I ターン促進、子育て環境や教育環境の整備など「まち・ひと・しごと創生」に向けた取組みが多くなっています。

(2) 今後5年間(平成29～34年度)、各分野で特に必要だと思うことについて  
ア 福祉や医療に関する取組み

【回答(複数回答)】

1	「地域包括ケアシステム」の構築	37.9%
2	地域医療体制の充実	35.7%
3	健康保険・介護保険等の安定運営	33.4%
4	健康づくりの推進	23.2%
5	高齢者や障害者を支える地域福祉ネットワークの構築	22.2%
6	高齢者の権利擁護と認知症支援策の充実	19.9%
7	障害者福祉対策の推進	5.3%

【市民意識の傾向】

- 福祉や医療に関する取組みでは、「「地域包括ケアシステム」の構築」(37.9%)が最も多く、次いで「地域医療体制の充実」(35.7%)、「健康保険・介護保険等の安定運営」(33.4%)などとなっています。

イ コミュニティづくりなどに関する取組み

【回答(複数回答)】

1	市民と行政の協働による地域づくり	62.0%
2	地域コミュニティ活動への支援(地域自治の実現)	46.1%
3	市民活動やNPOの育成、体制の整備	20.4%
4	男女共同参画社会の形成	14.3%
5	基本的人権の尊重	13.6%

【市民意識の傾向】

- コミュニティづくりなどに関する取組みでは、「市民と行政の協働による地域づくり」(62.0%)が最も多く、次いで「地域コミュニティ活動への支援(地域自治の実現)」(46.1%)、「市民活動やNPOの育成、体制の整備」(20.4%)などとなっています。

## ウ 子育てや教育に関する取組み

### 【回答（複数回答）】

1	まち全体で支える子育て支援の充実	41.1%
2	学校・家庭・地域がつながる「コミュニティ・スクール」の充実・強化	35.9%
3	確かな学力を育む教育内容・環境の充実	24.4%
4	保育サービスや幼児教育の充実	22.9%
5	青少年の健全育成	19.3%
6	母子保健対策の充実	10.4%
7	一人ひとりに目を向けた特別支援教育の充実	10.1%
8	高校・高等教育の推進	7.8%

### 【市民意識の傾向】

- ・ 子育てや教育に関する取組みでは、「まち全体で支える子育て支援の充実」（41.1%）が最も多く、次いで「学校・家庭・地域がつながる「コミュニティ・スクール」の充実・強化」（35.9%）、「確かな学力を育む教育内容・環境の充実」（24.4%）などとなっています。

## エ 生涯学習やスポーツ・歴史文化等に関する取組み

### 【回答（複数回答）】

1	生涯学習の充実	51.6%
2	スポーツ・レクリエーションの振興	39.3%
3	芸術・文化活動の振興	24.8%
4	伝統芸能・文化財の保存・活用	23.2%
5	国際交流の推進、都市間交流の推進	20.3%

### 【市民意識の傾向】

- ・ 生涯学習やスポーツ・歴史文化等に関する取組みでは、「生涯学習の充実」（51.6%）が最も多く、次いで「スポーツ・レクリエーションの振興」（39.3%）、「芸術・文化活動の振興」（24.8%）などとなっています。

## オ 都市基盤や生活環境に関する取組み

### 【回答（複数回答）】

1	バスなどの公共交通網の充実・強化	43.6%
2	公園、緑地など公共空間の整備、緑化活動の推進	23.3%
3	駅周辺における駅前広場や駐車場、駐輪場の整備	23.2%
4	幹線道路（国道・県道など）や生活道路の整備	21.7%
5	快適な住宅・住環境の整備	21.3%
6	良好なまち並み・景観の整備	15.6%
7	地域や行政の高度情報化の推進	9.6%
8	上水道の整備	6.6%
9	離島や周辺地域における生活環境の整備や産業の振興・交流事業の促進	6.2%

### 【市民意識の傾向】

- ・ 都市基盤や生活環境に関する取組みでは、「バスなどの公共交通網の充実・強化」（43.6%）が最も多く、次いで「公園、緑地など公共空間の整備、緑化活動の推進」（23.2%）、「駅周辺における駅前広場や駐車場、駐輪場の整備」（23.2%）などとなっています。

## カ 環境保全に関する取組み

### 【回答（複数回答）】

1	ごみ発生抑制・再資源化の促進	56.2%
2	市民総参加の美化活動などによる自然環境の保全	33.3%
3	地球温暖化対策の推進	29.9%
4	太陽光発電などの再生可能エネルギーの普及促進	28.2%
5	下水道の整備	17.6%

### 【市民意識の傾向】

- ・ 環境保全に関する取組みでは、「ごみ発生抑制・再資源化の促進」（56.2%）が最も多く、次いで「市民総参加の美化活動などによる自然環境の保全」（33.3%）、「地球温暖化対策の推進」（29.9%）などとなっています。

## キ 安全・安心に関する取組み

【回答（複数回答）】

1	地震・台風などの災害対策の推進	58.8%
2	地域防犯活動の推進、青少年の非行防止、テロ等に対する危機管理	44.3%
3	消費者の安全・安心の確保	35.2%
4	交通安全の推進	25.3%
5	消防力の整備・充実	9.6%

### 【市民意識の傾向】

- ・ 安全・安心に関する取組みでは、「地震・台風等の災害対策の推進」（58.8%）が最も多く、次いで「地域防犯活動の推進、青少年の非行防止、テロ等に対する危機管理」（44.3%）、「消費者の安全・安心の確保」（35.2%）などとなっています。

## ク 産業振興に関する取組み

【回答（複数回答）】

1	企業誘致・雇用の確保	57.6%
2	商業、サービス業の振興	29.9%
3	農林水産業の振興と第六次産業化の推進	28.1%
4	地域資源を活かした観光振興、交流機会の創出	26.8%
5	新たな創業への支援	17.3%
6	工業の振興	7.7%

### 【市民意識の傾向】

- ・ 産業振興に関する取組みでは、「企業誘致・雇用の確保」（57.6%）が最も多く、次いで「商業、サービス業の振興」（29.9%）、「農林水産業の振興と第六次産業化の推進」（28.1%）などとなっています。

## ケ 市民参画・行財政運営に関する取組み

### 【回答（複数回答）】

1	財政運営の効率化の推進、安定的な財源の確保	37.1%
2	職員の資質向上と意識改革の推進	35.8%
3	公共施設の再編と有効活用の推進、遊休財産の処分と活用	35.2%
4	まちづくりへの市民参画機会の拡充	20.8%
5	地域主権の確立、国や県との連携強化	15.6%
6	広報・広聴活動と情報公開の推進	12.7%
7	他市町との共同処理事務や広域行政の推進	10.5%

### 【市民意識の傾向】

- ・ 市民参画・行財政運営に関する取組みでは、「財政運営の効率化の推進、安定的な財源の確保」（37.1%）が最も多く、次いで「職員の資質向上と意識改革の推進」（35.8%）、「公共施設の再編と有効活用の推進、遊休財産の処分と活用」（35.2%）などとなっています。

## 6 第1次光市総合計画の成果と評価

第1次光市総合計画では、本市が展開する施策の代表的な目標値として、4つの基本目標ごとに全31項目からなる「ひかり未来指標」を設定し、その実現状況を明らかにするとともに、計画の実効性を確保してきました。また、基本目標の下位に位置付けている「個別目標」についても、全163項目からなる「まちづくりの指標」により、施策展開による効果や成果を測ってきました。

計画の終了を迎えるにあたり、10年の成果を示すとともに、満足度や重要度の推移による客観的な評価を行います。

## 1 基本目標Ⅰ 人と地域で支えあうまち

### 【10年間の主な成果】

#### **重点目標1 コミュニティで支える地域社会を築くために**

- 地域コミュニティ活動や市民活動を促進するための拠点施設となる「地域づくり支援センター」を整備し、基本構想に掲げるまちづくりの理念を踏まえた取組みにより、市民の自主的・主体的なコミュニティ活動や市民活動を支援してきました。
- 地域活性化に向けた市民・事業所・行政が一体となった取組みを進めるため、「光市コミュニティ推進基本方針」を策定しました。
- 老朽化が進む室積公民館を建て替え、地域住民が気軽に立ち寄り、笑顔でふれあい、絆を深めるまちづくりの拠点として、「室積コミュニティセンター」を整備しました。
- 地域の交流や課題解決、活性化を図り、地域コミュニティ活動の拠点として活用することを目的に、市内全ての公民館をコミュニティセンターに名称変更しました。

#### **重点目標2 互いに支えあい健やかに暮らすために**

- 胃がん検診を含む3種類以上の個別検診受信者に対し、次年度の検診料を割引く「がん検診トリプルお得事業」の実施など、各種がんの予防に努め、地域保健の充実を図りました。
- 緊急通報体制や地域密着型介護施設の整備など、ソフト・ハードの両面から高齢者への生活支援サービスや、障害者自立支援制度に基づいた適切な福祉サービスの提供により、誰もが健やかで安心して暮らせる社会づくりを進めました。
- 急速な高齢化に伴う医療需要の変化に対応するため、光総合病院は急性期医療、大和総合病院は慢性期医療やリハビリ医療を担う病院へと機能分化を図ることとし、病棟の改修等に着手しました。また、病院間の連携を強化するため、二つの病院を結ぶ直通バスの運行を開始しました。
- 光総合病院が地域医療を担う中核病院としての社会的使命を今後も継続的に果たしていくために、移転新築により機能の充実強化を図ることとしました。
- 「健康増進計画」と「食育推進計画」を包含した「健康づくり推進計画」を策定し、市民の健康づくりの一体的な推進を進めました。
- 市民福祉の向上と健康増進を目的とした三島温泉健康交流施設を整備しました。
- 高齢者が住みなれた地域で安心して暮らし続けられるよう、医療介護連携システムと高齢者支援システムからなる「地域包括ケアシステム」の構築を進めました。

### 重点目標3 認めあう共生の社会を築くために

- 「光市人権施策推進指針」に基づき、市民一人ひとりの人権が尊重された心豊かな地域社会の実現を目指した人権施策を総合的に推進しました。

#### 【ひかり未来指標】

	策定時 (参考) (H17. 18)	前期終了時 ① (H23)	近況値 ② (H27)	後期目標値 @ (H28)	進捗率 (②/①-1) ×100	達成率 ②/@ ×100
市民活動支援に関する 「満足度」	7.6%	14.0%	13.6%	25.0%	-2.9%	54.4%
市民の自治活動への 「参加度」	42.4%	48.6%	45.5%	60.0%	-6.4%	75.8%
NPO 法人の数	13 団体	14 団体	17 団体	30 団体	21.4%	56.7%
市民の健康づくりへの 「取組み」	85.7%	88.6%	86.9%	95.0%	-1.9%	91.5%
福祉対策に関する「満 足度」	15.4%	26.7%	24.8%	30.0%	-7.1%	82.7%
市民の福祉活動への 「参加度」	—	12.6%	11.9%	25.0%	-5.6%	47.6%
光市への「愛着感」	68.2%	74.6%	67.8%	80.0%	-9.1%	84.8%

### 【まちづくりの指標】

	指標の数	達成率			
		100%超	80%~100%	50%~80%	0%~50%
重点目標Ⅰ コミュニティで支える地域を築くために	11	1	4	6	0
重点目標Ⅱ 互いに支えあい健やかに暮らすために	22	9	9	3	1
重点目標Ⅲ 認めあう共生の社会を築くために	5	1	1	2	1
合計	38	11	14	11	2

- ※ 「進捗率」は、後期基本計画策定時からの数値の伸びの度合い  
 ※ 「達成率」は、後期目標値に対する到達の度合い（達成率が100%を超えていれば、前期の目標値に到達していると判断できます）

### 【満足度と重要度の推移（H17-H23-H27）】

#### 市民団体やNPOなどの育成（目標値：10.0%）

	満足	どちらともいえない	不満		重要	どちらともいえない	重要でない
H17	5.9%	86.5%	7.6%	H17	17.9%	73.0%	9.1%
H23	12.8%	76.8%	10.4%	H23	42.2%	50.6%	7.2%
H27	10.1%	82.8%	7.0%	H27	38.1%	54.1%	7.8%

#### 地域コミュニティ活動の支援（目標値：15.0%）

	満足	どちらともいえない	不満		重要	どちらともいえない	重要でない
H17	9.3%	83.3%	7.4%	H17	22.4%	70.3%	7.3%
H23	15.2%	73.9%	10.9%	H23	46.3%	47.8%	6.0%
H27	17.1%	75.1%	7.8%	H27	48.5%	46.5%	5.1%

#### 健康づくりの推進（目標値：45.0%）

	満足	どちらともいえない	不満		重要	どちらともいえない	重要でない
H17	42.9%	49.3%	7.8%	H17	47.6%	48.3%	4.1%
H23	39.2%	53.1%	7.7%	H23	66.2%	30.0%	3.8%
H27	34.7%	57.4%	7.9%	H27	63.6%	33.6%	2.7%

- ※ 目標値は、満足度の前期（H23）目標値  
 ※ H22の「満足」（不満）は、「満足」（不満）と「やや満足」（やや不満）を合わせた割合  
 ※ H22の「重要」（重要でない）は、「重要」（不満）と「どちらかと言えば重要」（どちらかと言えば不満）を合わせた割合

## 【満足度と重要度の推移（H17-H23-H27）】

（満足度）

（重要度）

### 高齢者福祉対策の推進（目標値：20.0）

	満足	どちらともいえない	不満
H17	17.6%	62.8%	19.6%
H23	28.6%	51.9%	19.5%
H27	27.7%	54.8%	17.4%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	57.2%	40.3%	2.5%
H23	78.0%	19.2%	2.7%
H27	78.4%	19.7%	2.0%

### 障害者福祉対策の推進（目標値：20.0%）

	満足	どちらともいえない	不満
H17	13.1%	73.2%	13.7%
H23	24.7%	62.7%	12.6%
H27	21.8%	68.3%	9.9%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	48.0%	49.9%	2.0%
H23	70.0%	28.3%	1.7%
H27	69.0%	28.9%	2.1%

### 地域医療対策の充実（目標値：35.0%）

	満足	どちらともいえない	不満
H17	29.1%	48.6%	22.2%
H23	34.5%	34.3%	31.2%
H27	33.3%	36.7%	29.9%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	62.5%	35.5%	2.0%
H23	90.0%	9.2%	0.8%
H27	86.8%	12.8%	0.4%

### 男女共同参画の推進（目標値：15.0%）

	満足	どちらともいえない	不満
H17	9.7%	84.0%	6.3%
H23	13.6%	81.0%	5.4%
H27	12.1%	81.3%	6.5%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	16.2%	73.6%	10.2%
H23	39.2%	53.5%	7.3%
H27	42.6%	51.4%	6.1%

## 【10年間の評価】

- 平成28年度市民アンケート結果を踏まえて作成します。
- 
- 
- 
- 
-

## 2 基本目標Ⅱ 人を育み人が活躍するまち

### 【10年間の主な成果】

#### 重点目標1 子どもを生み育てるために

- 市独自の取組みとして、発達障害がある児童・生徒の支援を行う補助教員や、小学校5、6年生の外国語活動を支援する補助指導員を各学校に配置するなど、教育環境の充実を図りました。
- 子どもの健やかな成長の応援と子育て世代の経済的負担の軽減を目的に、一定の要件のもと、幼稚園又は保育園に同時に2人以上入所した場合の保育料等の無料化や、高校生までの児童・生徒の入院時の医療費の助成を行いました。
- 放課後児童クラブ（サンホーム）の入所対象児童を小学校5年生まで拡充するとともに、入所児童の保育環境を改善するため、入所定員を超過する、島田小、光井小に第2サンホーム、浅江小に第2サンホーム、第3サンホームを設置しました。
- 安全で安心な教育環境を実現するため、耐震診断や耐震補強工事など小中学校施設の計画的な耐震化や、公立幼保施設の耐震診断を実施し、小中学校施設については平成26年度末で耐震化100%を達成しました。
- 安全・安心で栄養バランスや多様性に配慮した学校給食の提供や、学校給食を通じた食育の推進などを充実するため、老朽化が進む光・大和の学校給食センターを集約した新たな学校給食施設を整備しました。
- 伊藤博文公の生き方に触れるとともに、まちづくりや国際交流に関する学習を通してグローバルな視点で地域に貢献できる青少年リーダーを育成するため、中学生6名を「ひかり夢大使」として英国に派遣しました。

#### 重点目標2 彩り豊かな人づくりのために

- 本市が我がまちのスポーツとして位置付けたセーリング及び新体操競技を普及・育成するため、市内スポーツ団体等が行う取組みに対して支援を行いました。
- 利用者にとって分かりやすく使いやすくするため、併せて、業務の効率化と維持管理経費の削減を図るため、図書館に「カーリルタッチの導入」や「子ども用検索端末の新設」など新たなシステムを稼働しました。

#### 重点目標3 かおり高い文化を育てるために

- 「史跡石城山神籠石保存管理計画」に沿って、石城山神籠石や市内各地の埋蔵文化財の適切な保存・活用に努めました。
- 伊藤博文公の没後百年を記念して伊藤公が残した偉大な足跡を振り返るための事業を集中的に開催するなど、郷土の歴史・文化の保存や継承に取り組みしました。

- 「本市に根差す伝統文化・芸能を周知するとともに、未来に継承する意識の醸成、地域の活性化につなげることを目的に、「光市伝統芸能文化祭」を開催しました。

#### 重点目標4 人の繋がりを広げるために

- 神籠石を有する自治体との連携による「神籠石サミット」の開催や、自然敬愛の心をもって、日本の豊かな自然を後世に伝える「日本の森・滝・渚全国協議会」の設立など、資源やまちづくりの理念を共有する他都市と連携した取組みを進めました。

#### 【ひかり未来指標】

	策定時 (参考) (H17.18)	前期終了時 ① (H23)	近況値 ② (H27)	後期目標値 @ (H28)	進捗率 (②/①-1) ×100	達成率 ②/@ ×100
子どもの育成に関する「満足度」	16.9%	36.0%	34.8%	40.0%	-3.3%	87.0%
生涯学習・文化・スポーツ振興に関する「満足度」	18.7%	29.6%	25.5%	33.3%	-13.9%	76.6%
保育環境に関する「充実度①」(待機児童数)	0人	0人	0人	0人	0.0%	100.0%
保育環境に関する「充実度②」(特別保育実施率)	100.0%	97.2%	97.2%	100.0%	0.0%	97.2%
不登校児童生徒の割合	0.57%	0.82%	0.78%	0.3%	5.1%	38.5%
青少年健全育成活動への「参加率」	—	11.8%	54.5%	25.0%	361.9%	218.0%
光市の住みよさ	68.2%	82.6%	82.1%	90.0%	-0.6%	91.2%

【まちづくりの指標】

	指標の数	達成率			
		100%超	80%~100%	50%~80%	0%~50%
重点目標Ⅰ 子どもを生み育てるために	19	2	13	2	2
重点目標Ⅱ 彩り豊かなまちづくりのために	8	2	2	2	2
重点目標Ⅲ かおり高い文化を育てるために	4	0	2	2	0
重点目標Ⅳ 人の繋がりを広げるために	3	0	0	1	2
合計	34	4	17	7	6

【満足度と重要度の推移 (H17-H23-H27)】

(満足度)

(重要度)

子育て支援対策の充実 (目標値: 20.0%)

	満足	どちらともいえない	不満
H17	18.0%	67.1%	14.9%
H23	36.0%	56.3%	7.7%
H27	32.6%	57.3%	10.0%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	49.2%	48.2%	2.6%
H23	71.7%	25.2%	3.1%
H27	72.5%	25.8%	1.6%

学校教育の充実 (目標値: 20.0%)

	満足	どちらともいえない	不満
H17	15.7%	70.2%	14.1%
H23	35.9%	54.7%	9.4%
H27	37.0%	56.6%	6.4%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	55.3%	42.5%	2.2%
H23	82.4%	16.5%	1.1%
H27	75.7%	23.1%	1.1%

高校・高等教育の充実 (目標値: 35.0%)

	満足	どちらともいえない	不満
H17			
H23	32.5%	57.5%	10.0%
H27	30.0%	61.8%	8.2%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17			
H23	75.7%	23.4%	0.8%
H27	72.5%	26.2%	1.3%

生涯学習の充実 (目標値: 20.0%)

	満足	どちらともいえない	不満
H17	17.7%	74.3%	8.0%
H23	27.9%	63.4%	8.7%
H27	22.2%	70.0%	8.0%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	26.6%	67.0%	6.5%
H23	57.6%	36.7%	5.6%
H27	52.1%	45.0%	3.0%

【満足度と重要度の推移（H17-H23-H27）】

（満足度）

（重要度）

スポーツの振興（目標値：25.0%）

	満足	どちらともいえない	不満
H17	20.7%	73.5%	5.8%
H23	32.1%	58.7%	9.2%
H27	28.6%	65.2%	6.1%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	17.3%	73.8%	8.9%
H23	48.9%	43.0%	8.1%
H27	51.1%	45.5%	3.5%

文化・芸術活動の振興（目標値：20.0%）

	満足	どちらともいえない	不満
H17	17.7%	76.6%	5.7%
H23	28.8%	66.1%	5.0%
H27	25.7%	69.7%	4.6%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	17.2%	74.2%	8.7%
H23	50.4%	45.2%	4.3%
H27	44.8%	50.7%	4.6%

文化財の保存・活用（目標値：20.0%）

	満足	どちらともいえない	不満
H17	17.5%	78.0%	4.5%
H23	31.8%	62.4%	5.8%
H27	27.6%	67.7%	4.7%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	18.4%	73.3%	8.3%
H23	54.3%	41.1%	4.6%
H27	49.5%	46.9%	3.7%

国際交流の推進（目標値：10.0%）

	満足	どちらともいえない	不満
H17	5.5%	85.9%	8.6%
H23	9.0%	81.5%	9.5%
H27	9.1%	83.7%	7.2%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	17.8%	73.3%	8.9%
H23	37.5%	53.2%	9.2%
H27	34.8%	57.4%	7.8%

【10年間の評価】

- 平成28年度市民アンケート結果を踏まえて作成します。
- 
- 
- 
-

### 3 基本目標Ⅲ 人の暮らしを支えるまち

#### 【10年間の主な成果】

##### 重点目標1 快適な暮らしを営むために

- 都市計画道路虹ヶ丘森ヶ峠線の浅江島田間や川園線などの幹線道路、市民生活に密着した生活道路の計画的な整備を進めるとともに、県の河川改修事業と連携した三島橋の架替えを行いました。
- 冠山総合公園の園内施設や「果実の里」の整備を行うとともに、子どもが楽しめる空間として遊具を備えた「子どもの森」を整備しました。
- 水道水の安定的な供給を行うため、大和簡易水道や上ヶ原簡易水道、岩屋・伊保木簡易水道の上水道への統合を行いました。
- 本市の恵まれた自然環境を守り、自然と調和した魅力あふれる景観形成を進めるため、市民と協働で景観計画を策定しました。
- 室積港に、牛島・室積航路利用者のための待合所及びトイレを設置し、航路利用者の利便性の向上を図りました。

##### 重点目標2 自然を守り育むために

- 物を大切にする「もったいない」という日本古来の文化を継承した、地球に負荷をかけないライフスタイルを普及させるため、風呂敷の活用や市民からのアイデア募集など、もったいない文化の醸成に取り組みました。
- 住宅用太陽光発電システムや住宅の省エネ設備の設置費助成制度の創設や公共施設への太陽光発電システムの導入など、新エネルギーの普及や啓発に取り組みました。
- ごみの分別をわかりやすく示したスマートフォン等に対応した「ごみ分別アプリ」を導入し、ごみの減量化・リサイクルの推進に努めました。

##### 重点目標3 安全な暮らしを守るために

- 多様化・複雑化・大規模化の傾向を強める災害に対応するため、光地区消防組合や光市消防団への資機材の計画的な配備を進めました。
- 災害発生時等に広い範囲に迅速かつ確に情報を発信し、防災及び減災に資することを目的とした防災行政無線を整備しました。
- 高齢者や障害者など、避難時に支援を必要とする要援護者の安全確保のため、「自助」「共助」を基本とした避難支援体制の整備に取り組みました。
- 消費生活全般に関する苦情や問い合わせに対応するため、本庁舎内に消費生活センターを設置し、専門の消費生活相談員を配置、資質向上を図るなど体制の整備を図りました。

- 市民や有識者等を交えて、室積海岸松原地区の海岸侵食に起因する高潮被害の防止と白砂青松の自然海岸の保全や周辺景観の維持を両立させるための対策工法等を検討し、保全施設の整備を進めました。

#### **重点目標4 優れた価値を生み出すために**

- 「里の厨」を中心に、地産地消の推進や生産者と消費者の交流促進など地域農業の振興を図るとともに、「里の厨」に隣接して地元農事組合法人が進める施設整備を支援し、農業の第六次産業化を推進しました。
- 国の交付金を活用し、農業集落道や農業用排水施設などの農業基盤づくりを進めるとともに、後継者不足が深刻な問題となっている農業や漁業への新たな就労者の確保対策に取り組みました。
- 中小企業等に対する新規事業チャレンジ支援制度の創設や市内への事業所設置や雇用の拡大に対する奨励金の拡充など、企業誘致や雇用拡大に努めました。
- 地域経済における雇用の重要性を広く市民で共有できる機会を創出するため、5月31日を「雇用の日」として位置付けるとともに、雇用を守る事業所の認定などを行いました。

#### **重点目標5 地域の魅力を活かすために**

- 関東地方に在住する光市出身者と光市をつなぐ「ふるさと光の会」を設立し、都会における交流の場や、ふるさとへのUターンを支援するための仕組みづくりに取り組むとともに、ホームページ等を活用した積極的な情報発信を行いました。
- 本市の知名度を高めるため、「ふるさと光応援寄附金」制度を拡充し、一定額以上の寄附をしていただいた市外在住者に対し、寄附金額に応じた本市の特産品等をお礼として贈ることとしました。

### 【ひかり未来指標】

	策定時 (参考) (H17.18)	前期終了時 ① (H23)	近況値 ② (H27)	後期目標値 @ (H28)	進捗率 (②/①-1) ×100	達成率 ②/@ ×100
快適な都市基盤の整備に関する「満足度」	—	37.4%	34.8%	43.7%	-7.0%	79.6%
上下水道の「普及率」	73.7%	83.0%	86.5%	85.6%	4.2%	101.1%
自然環境の保全に関する「満足度」	20.6%	36.2%	45.7%	38.0%	26.2%	120.3%
市民のごみの減量や省エネルギーへの「取り組み」	—	93.0%	91.4%	97.5%	-1.7%	93.7%
安全・安心に関する「満足度」	14.0%	31.7%	33.8%	38.3%	6.6%	88.3%
市民の防災への「取り組み」	32.8%	47.6%	50.6%	70.0%	6.3%	72.3%
市民の地産地消への「取り組み」	—	85.3%	82.0%	95.0%	-3.9%	86.3%
産業振興や雇用に関する「満足度」	7.0%	14.0%	13.0%	23.3%	-7.1%	55.8%
今後の「居留意識」	69.6%	75.4%	75.1%	80.0%	-0.4%	93.9%

### 【まちづくりの指標】

	指標の数	達成率			
		100%超	80%~100%	50%~80%	0%~50%
重点目標Ⅰ 快適な暮らしを営むために	20	3	9	5	3
重点目標Ⅱ 自然を守り育むために	11	2	6	2	1
重点目標Ⅲ 安全な暮らしを守るために	17	9	3	4	1
重点目標Ⅳ 優れた価値を生み出すために	18	4	5	7	2
重点目標Ⅴ 地域の魅力を活かすために	6	0	3	3	0
合計	72	18	26	21	7

【満足度と重要度の推移（H17-H23-H27）】

（満足度）

（重要度）

幹線道路（国道・県道など）の整備

	満足	どちらともいえない	不満
H17	54.0%	32.1%	13.9%
H23	74.5%	11.3%	14.2%
H27	61.3%	19.7%	19.0%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	35.6%	42.6%	21.8%
H23	76.8%	15.4%	7.8%
H27	84.5%	11.6%	3.9%

地域の生活道の維持・補修

	満足	どちらともいえない	不満
H17	36.3%	37.0%	26.7%
H23	55.6%	20.4%	24.0%
H27	46.0%	26.8%	27.2%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	46.6%	41.2%	12.2%
H23	80.5%	15.9%	3.6%
H27	84.6%	12.7%	2.6%

歩道の拡幅・段差の解消（目標値：25.0%）

	満足	どちらともいえない	不満
H17	20.2%	44.7%	35.1%
H23	35.7%	28.5%	35.7%
H27	30.0%	32.2%	37.9%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	49.4%	43.2%	7.5%
H23	78.6%	18.1%	3.2%
H27	81.2%	16.9%	2.0%

都市公園の整備（目標値：30.0%）

	満足	どちらともいえない	不満
H17	27.5%	48.3%	24.2%
H23	35.5%	42.5%	22.0%
H27	31.0%	45.8%	23.1%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	26.4%	49.2%	24.4%
H23	50.0%	36.3%	13.7%
H27	52.7%	39.0%	8.2%

まちなみ・景観の整備（目標値：30.0%）

	満足	どちらともいえない	不満
H17	25.8%	55.2%	19.1%
H23	39.5%	43.4%	17.1%
H27	36.4%	47.6%	16.0%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	24.9%	56.6%	18.5%
H23	51.0%	40.9%	8.1%
H27	53.9%	39.1%	7.0%

バス交通網の整備（目標値：20.0%）

	満足	どちらともいえない	不満
H17	14.6%	50.4%	35.1%
H23	24.6%	40.4%	35.0%
H27	17.4%	37.9%	44.9%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	39.1%	51.1%	9.7%
H23	63.5%	31.5%	5.0%
H27	68.3%	27.2%	4.5%

快適な居住空間の整備（目標値：45.0%）

	満足	どちらともいえない	不満
H17			
H23	36.9%	50.5%	12.6%
H27	38.0%	48.0%	14.1%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17			
H23	55.2%	39.5%	5.3%
H27	61.6%	34.0%	4.5%

## 【満足度と重要度の推移（H17-H23-H27）】

（満足度）

（重要度）

### 上下水道の整備（目標値：45.0%）

	満足	どちらともいえない	不満
H17	47.5%	29.7%	22.8%
H23	60.7%	21.4%	17.9%
H27	59.8%	25.7%	14.4%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	53.2%	38.5%	8.4%
H23	81.8%	15.2%	3.0%
H27	80.1%	16.7%	3.3%

### 地域情報化の推進（目標値：15.0%）

	満足	どちらともいえない	不満
H17	8.1%	81.5%	10.4%
H23	14.7%	73.8%	11.4%
H27	13.5%	76.5%	10.0%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	26.4%	65.1%	8.5%
H23	43.4%	49.8%	6.7%
H27	46.9%	49.1%	4.0%

### 川や山などの自然環境の保全（目標値：25.0%）

	満足	どちらともいえない	不満
H17	20.6%	60.1%	19.3%
H23	36.2%	45.9%	17.9%
H27	45.7%	42.9%	11.4%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	46.0%	50.1%	3.9%
H23	73.0%	24.9%	2.2%
H27	72.5%	25.9%	1.7%

### ごみの収集・処理対策の充実

	満足	どちらともいえない	不満
H17	52.2%	31.8%	16.0%
H23	63.8%	23.1%	13.1%
H27	65.1%	23.3%	11.6%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	59.7%	37.9%	2.4%
H23	83.0%	16.2%	0.8%
H27	84.4%	14.4%	1.2%

### 資源のリサイクル対策の充実

	満足	どちらともいえない	不満
H17	30.0%	55.2%	14.8%
H23	49.9%	38.9%	11.2%
H27	52.6%	38.3%	9.1%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	49.1%	48.2%	2.7%
H23	77.5%	21.2%	1.4%
H27	75.1%	22.7%	2.2%

### 地震・台風などの災害対策の充実（目標値：15.0%）

	満足	どちらともいえない	不満
H17	9.0%	63.9%	27.0%
H23	20.0%	52.3%	27.7%
H27	25.6%	56.9%	17.6%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	60.7%	38.2%	1.1%
H23	86.6%	12.8%	0.5%
H27	78.3%	20.3%	1.4%

### 消防・防災体制の充実

	満足	どちらともいえない	不満
H17	38.0%	53.5%	8.4%
H23	51.4%	40.5%	8.1%
H27	51.5%	42.7%	5.8%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	54.7%	41.3%	4.0%
H23	85.7%	13.2%	1.1%
H27	82.1%	17.0%	0.9%

【満足度と重要度の推移（H17-H23-H27）】

（満足度）

（重要度）

防犯対策の充実（目標値：20.0%）

	満足	どちらともいえない	不満
H17	15.2%	67.3%	17.5%
H23	36.5%	50.0%	13.5%
H27	36.2%	53.9%	9.9%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	56.8%	41.4%	1.8%
H23	87.0%	12.7%	0.3%
H27	80.6%	18.3%	1.1%

交通安全対策の充実（目標値：20.0%）

	満足	どちらともいえない	不満
H17	17.8%	67.7%	14.4%
H23	38.5%	47.9%	13.6%
H27	39.5%	49.8%	10.7%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	48.9%	48.5%	2.6%
H23	84.5%	14.7%	0.8%
H27	78.1%	20.6%	1.3%

消費生活相談（目標値：25.0%）

	満足	どちらともいえない	不満
H17	13.3%	71.9%	14.8%
H23	22.0%	62.9%	15.1%
H27	17.0%	73.8%	9.2%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	37.2%	59.4%	3.4%
H23	66.9%	31.1%	2.0%
H27	50.3%	46.3%	3.3%

農林水産業の振興

	満足	どちらともいえない	不満
H17	6.2%	81.8%	12.0%
H23	15.4%	65.2%	19.4%
H27	13.2%	73.1%	13.7%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	31.6%	63.3%	5.1%
H23	66.3%	33.1%	0.6%
H27	62.7%	35.9%	1.4%

地元中小企業の支援（目標値：10.0%）

	満足	どちらともいえない	不満
H17	6.6%	77.5%	15.8%
H23	13.7%	63.9%	22.4%
H27	12.1%	73.8%	14.1%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	36.6%	60.0%	3.4%
H23	70.2%	28.6%	1.2%
H27	63.2%	34.7%	2.0%

地場産業の振興（目標値：10.0%）

	満足	どちらともいえない	不満
H17	6.4%	77.1%	16.5%
H23	15.1%	65.1%	19.9%
H27	14.4%	70.4%	15.2%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	40.5%	56.7%	2.7%
H23	70.3%	29.2%	0.6%
H27	66.2%	32.2%	1.5%

企業誘致・雇用の確保（目標値：15.0%）

	満足	どちらともいえない	不満
H17	8.0%	59.2%	32.8%
H23	13.2%	53.9%	32.9%
H27	12.4%	57.3%	30.3%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	60.6%	37.7%	1.7%
H23	78.1%	20.5%	1.4%
H27	77.7%	20.3%	2.0%

【満足度と重要度の推移（H17-H23-H27）】

（満足度）

（重要度）

観光の振興（目標値：20.0%）

	満足	どちらともいえない	不満
H17	13.0%	70.7%	16.4%
H23	21.4%	58.4%	20.1%
H27	15.3%	63.1%	21.6%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	32.3%	60.1%	7.6%
H23	61.4%	32.7%	6.0%
H27	58.0%	37.5%	4.5%

【10年間の評価】

- 平成28年度市民アンケート結果を踏まえて作成します。
- 
- 
- 
- 
-

#### 4 基本目標Ⅳ 時代を拓く新たな都市経営

##### 【10年間の主な成果】

###### **重点目標1 信頼と協働の都市経営を目指して**

- 計画等の策定過程におけるパブリックコメント制度の創設や各種審議会等での公募委員の拡充、女性の登用推進など、市政への市民参画に努めるとともに、各種審議会等での審議内容に関する情報公開を進めました。
- 市民に開かれた市政を実現するため、市民の求めに応じて地域に出向く対話集会を実施するとともに、市長室で自由に語り合う常設の広聴制度の創設、市民が市長と海から見る光市などの視察等を通して対話を行う「市長と気軽にバスツアー」の実施など、多くの市民との対話を進めました。
- 複雑な行政手続きの包括的なガイドの作成や「光市役所おもてなし10ヶ条」に基づく職員のおもてなしの実践など、市民に親しまれる市役所づくりに取り組みました。

###### **重点目標2 自立と連携の自治体を目指して**

- 山口県市長会や全国市長会等を通じて、国・県等への要望活動を行うとともに、市民ニーズに応じた権限移譲事務の受け入れを推進し、市民サービスの向上に努めました。

###### **重点目標3 持続可能な行財政運営を目指して**

- 市債発行の抑制や高利率の市債の借り換え、内部事務経費を中心とした経常的経費の削減のほか、特別職・一般職職員の給与の見直しや市交際費の縮減などを進めました。
- 税や使用料等の収納率の向上対策や遊休公有地の処分、各種使用料・手数料の見直しを計画的に進めるなど、自主財源の確保や受益者負担の適正化に努めました。
- 可燃ごみ収集業務の一部や、学校給食センターの調理・配送業務について民間委託を行うなど、組織や体制のスリム化に努めました。
- 公共施設の利用状況、維持管理や運営などに係るコスト情報、ストック情報など多角的な視点から調査・分析し、今後のあり方や廃止・統合等を含めた再編までの方向性を明確にするための公共施設マネジメント事業の調査・研究に取り組みました。

### 【ひかり未来指標】

	策定時 (参考) (H17.18)	前期終了時 ① (H23)	近況値 ② (H27)	後期目標値 @ (H28)	進捗率 (②/①-1) ×100	達成率 ②/@ ×100
市政への「関心度」	72.7%	74.9%	62.5%	80.0%	-16.6%	78.1%
市政への市民参加に関する「満足度」	20.1%	20.6%	21.5%	35.0%	4.45	61.4%
情報提供・公開に関する「満足度」	20.4%	30.1%	29.9%	35.0%	-0.7%	85.4%
市民アンケートの回収率	37.4%	41.6%	43.6%	50.0%	4.8%	87.2%
経常収支比率	91.6%	91.9%	101.5%	90%未満	-9.5%	88.7%
実質公債費比率	22.4%	14.6%	10.1%	16%未満	44.6%	158.4%
市税収納率	95.9%	94.5%	95.7%	94.3%	1.3%	101.5%
市民サービスに関する「満足度」	—	24.9%	23.4%	40.0%	-6.0%	58.5%

### 【まちづくりの指標】

	指標の数	達成率			
		100%超	80%~100%	50%~80%	0%~50%
重点目標Ⅰ 信頼と協働の都市経営を目指して	7	5	1	1	0
重点目標Ⅱ 自立と連携の自治体を目指して	3	2	0	1	0
重点目標Ⅲ 持続可能な行財政運営を目指して	8	3	3	2	0
合計	18	10	4	4	0

## 【満足度と重要度の推移（H17-H23-H27）】

（満足度）

（重要度）

### 市政への市民参加の推進（目標値：15.0%）

	満足	どちらともいえない	不満
H17	11.9%	77.2%	10.9%
H23	18.1%	64.9%	17.0%
H27	19.0%	69.0%	11.9%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	28.5%	66.8%	4.7%
H23	56.0%	40.9%	3.1%
H27	55.7%	41.8%	2.5%

### 市政に関する情報提供や情報公開（目標値：25.0%）

	満足	どちらともいえない	不満
H17	20.4%	64.1%	15.5%
H23	30.1%	48.0%	21.9%
H27	29.9%	55.4%	14.7%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	41.3%	55.4%	3.3%
H23	68.7%	29.9%	1.4%
H27	68.5%	29.6%	1.9%

### 広域行政・広域連携の推進

	満足	どちらともいえない	不満
H17	9.1%	78.8%	12.1%
H23	12.4%	74.3%	13.2%
H27	14.4%	75.6%	9.9%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	28.6%	64.4%	7.0%
H23	53.9%	42.5%	3.6%
H27	50.6%	46.4%	2.9%

### 健全な財政運営や行政改革の推進

	満足	どちらともいえない	不満
H17	9.9%	69.2%	20.9%
H23	15.2%	62.9%	22.0%
H27	17.0%	68.1%	14.9%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17	47.9%	48.3%	3.8%
H23	69.5%	29.6%	0.9%
H27	62.9%	35.5%	1.6%

### 市民サービスの充実

	満足	どちらともいえない	不満
H17			
H23	24.9%	54.2%	20.9%
H27	23.4%	59.3%	17.3%

	重要	どちらともいえない	重要でない
H17			
H23	66.3%	30.6%	3.1%
H27	68.3%	30.1%	1.6%

## 【10年間の評価】

- 平成28年度市民アンケート結果を踏まえて作成します。
- 
- 
- 
- 
-

## 5 市政に対する市民のニーズ

満足度が低く重要度が高い施策は、市民からの取組みニーズが高い施策と捉えられます。その年次的な推移を見ると、「企業誘致、雇用の確保」、「地域医療対策の充実」、「バス交通網の整備」、「交通結節機能の充実」に対するニーズが常に高いことがわかります。

### 【ニーズ度（H24 - H28）】

	1位	2位	3位	4位	5位
H24	企業誘致、雇用の確保 (1.91)	地域医療対策の充実 (1.66)	地震・台風等の災害対策の充実 (1.38)	バス交通網の整備 (1.33)	歩道の拡幅・段差の解消 (1.33)
H25	企業誘致、雇用の確保 (1.51)	地域医療対策の充実 (1.38)	交通結節機能の充実 (1.26)	バス交通網の整備 (1.25)	地震・台風等の災害対策の充実 (1.24)
H26	バス交通網の整備 (1.51)	企業誘致、雇用の確保 (1.47)	交通結節機能の充実 (1.46)	歩道の拡幅・段差の解消 (1.32)	地域医療対策の充実 (1.32)
H27	企業誘致、雇用の確保 (1.41)	地域医療対策の充実 (1.36)	バス交通網の整備 (1.35)	交通結節機能の充実 (1.31)	歩道の拡幅・段差の解消 (1.31)
H28					

●ニーズ度 = 重要度（加重平均値） - 満足度（加重平均値）

市民意見をよりの確に反映した相対的な比較ができるよう、満足度と重要度の回答結果をそれぞれ次の計算方法による加重平均値を用いています。

選択肢	満足 / 重要	やや満足 / どちらかといえ ば重要	どちらとも いえない	やや不満 / どちらかといえ ば重要でない	不満 / 重要で ない
点数	+2	+1	0	-1	-2
回答数	A	B	C	D	E

●加重平均値 = ((A×2) + (B×1) + (C×0) + (D×-1) + (E×-2)) / 回答数

## 第3章 長期未来予測

### 1 長期未来予測の趣旨

人口問題を切り口とした長期的な展望を示し、これを「新しいまちづくり計画」の政策立案の裏付けとするため、未来を見据えた「長期未来予測」を掲げます。

また、「光市人口ビジョン」に示すように、本市では平成47年に年少人口・生産年齢人口・老年人口の全ての区分で人口減少期に入ると予測されており、人口問題を考える際に概ね20年後が一つの転換期であること、また、20年が概ね世代の継承に要する期間であることから、「長期未来予測」の到達点（展望する未来の地点）は、概ね20年後とします。

### 2 20年後の姿

#### (1) 予測される人口と市民生活の変化

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、概ね20年後（平成47年）の光市の人口は「41,640人」と、平成27年国勢調査による人口（推計値：51,392人）と比べて約10,000人減少すると予測されています。

また、3区分別人口の予測は、次のとおりです。

年少人口（14歳以下）	4,210人（10.1%）
生産年齢人口（15～64歳）	22,204人（53.3%）
老年人口（65歳以上）	15,226人（36.6%）

このように人口減少とともに、3人に1人以上が老年人口、また、年少人口の割合が1割となるなど少子高齢化が今よりも増して進展することが予測されています。

人口がこのように推移した場合に想定される、市民生活・市政への様々な影響について整理します。

## 20年後の姿

### 【くらしへの影響】

- ・
- ・
- ・

### 【経済への影響】

- ・
- ・
- ・

### 【市政への影響】

- ・
- ・
- ・

## (2) 展望する将来像

こうした予測される人口や市民生活・市政への影響を最小限にとどめ、将来を生きる市民の幸せを築くため、また、「ゆたかな社会」に向けての着実な歩みを見せる通過点とするため、20年後のあるべき姿（将来像）について政策テーマごとに4～5政策程度示します。

### (3) 展望する人口

展望する将来像に向かって「光市まち・ひと・しごと創生総合戦略」や総合計画を着実に実行することによって、人口減少の速度を緩やかにすることを目指すとともに、概ね20年後（平成47年）の光市人口及び3区分別人口について展望します。併せて参考としてそこに向かうまでの光市人口及び3区分別人口の見通しについても示します。

## 第4章 まちづくりの考え方

### 1 基本理念

20年後の予測される人口と展望する人口のギャップを埋めるとともに、20年後の展望する将来像を実現するため、向こう5年間のまちづくりの理念を示します。

### 2 基本姿勢

向こう5年間のまちづくりの基本的な姿勢を示します。

### 3 施策の体系

20年後の「展望する将来像」の実現に向けて展開する5年間の「施策の体系」を示します。

施策の体系の構図は、「基本目標」

└ 「重点目標」

└ 「施策」とします。

## 第5章 (仮称) 重点プロジェクト

戦略的観点から新しいまちづくり計画に沿ったまちづくりを総合的かつ横断的に推進し、現在を生きる市民の幸せを実現し、未来への確かな足掛かりとするため、5年間で特に優先して取り組む政策を「(仮称) 重点プロジェクト」として位置付けます。

## 第6章 分野別計画

5年間のまちづくりの方向性で示す施策の体系に沿って基本目標と重点目標を実現するための体系を、政策・施策・事業として段階的に整理します。

- 政策とは、基本目標や重点目標を実現するために目指すべき方向や行政活動をまとめたものです。
- 施策とは、政策を実現するための具体的な方策や対策をまとめたものです。
- 事業とは、個々の施策を実現するための具体的な手段となるものです。

- 基本目標 1 「 」
- 重点目標 1 「 」
- 政策 1 「 」

**【現状と課題】**

政策ごとに現在のまちの現状と課題を示します。

**【基本方針】**

政策ごとに目指すべき基本的な方針を示します。

**【政策展開の方向】**

政策を実現するための方向性を示します。

### 【成果指標】

まちづくりの達成度や、「将来を生きる市民」の幸せ達成度、「現在を生きる市民」の幸せの達成度を測るための指標を示します。

### 【主要な事業例】

主要な事業例について、具体的なスケジュールを示します。

### 【市民等との役割分担】

「現在を生きる市民」の幸せを実現するために、市民等自らができること、市民等に期待することを示します。

## 第7章 財政計画

新しいまちづくり計画に掲げた各種施策の実効性を確保するとともに、将来にわたって健全な財政を確保するため、計画期間における歳入及び歳出の財政のフレームを示します。

## 第8章 地域別整備計画

### 1 地域別整備計画の目的

人口減少が進む中、活力と魅力にあふれた地域社会を創出するためには、地域が有する個性を活かした施策を展開するとともに、地域間の役割分担と相互連携を進めることが必要です。

このため、地域の課題や特性に基づく地域別の振興方向を示すことにより、多くの市民と協働による地域づくりを推進します。

### 2 地域の設定

新市建設計画や第1次光市総合計画、さらには計画期間が平成43年度までの光市都市マスタープランに掲げる「地域別構想」における地域の設定を勘案し、東部・西部・南部・北部の4つの地域を設定します。

東部地域 : 岩田、三輪、塩田、東荷、岩田立野地区

西部地域 : 浅江、島田地区

南部地域 : 室積、光井地区

北部地域 : 三井、周防、上島田地区

### 3 地域別整備計画

#### (1) 東部地域

##### 【地域の人口・世帯と特性、課題】

地域における人口・世帯の動向、特性や課題を示します。

##### 【地域の整備方向】

地域の整備の方向性と主要な事業例を示します。

## 第9章 中山間地域の振興に関する基本的な方針

### 1 基本方針の目的

本市における中山間地域は、中心部よりも加速度的に人口減少、高齢化、過疎化が進んでおり、限界集落も生じる等厳しい状況下にあります。こうした中、自然や景観、伝統・文化など中山間地域が有する財産を守り育てていくことが、市としても大きな課題です。

こうしたことから、本市における中山間地域の振興のための基本的な方向性を示します。

### 2 対象地域の設定

基本方針の対象となる地域を定めます。現在の対象地域は、次のとおりです。

- (1) 山口県中山間地域づくりビジョンに位置付けられた中山間地域(牛島地区、岩田・三輪地区、東荷地区、塩田地区及び周防地区)
- (2) 人口減少率、高齢化率等の状況から中山間地域と同等の状況と考えられる地域(伊保木地区)

### 3 基本方針

#### (1) 現状と課題

人口・世帯の状況など中山間地域のおかれている状況を示します。

また、地域ごとの課題については、第8章の地域別整備計画で整理することから本章では中山間地域全体で総括的に現状と課題を整理します。

## (2) 基本的方向性

中山間地域振興の基本的方向性を「」とします。

※ 現光市中山間地域振興ビジョンの基本理念として掲げている「共に守り、共に伝える ふるさとの暮らし」の基本的な方向性を継承しつつ、現在の時代にふさわしい新たな理念を掲げます。

## (3) 振興方向

振興の方向性と主要な事業例を示します。

(振興のキーワード) 自然・景観の保全  
農林水産業の基盤  
移住、交流人口  
交通手段  
地域自治

## 【新しいまちづくり計画の体系図】

